

事業名

奈良を知る 地域を知る

目標

幼小中の連携を大切にし、地域や学校を誇れる子どもたち

1. 取組の視点

本校区は、中央に佐保川が流れ、世界遺産や文化遺産が点在する中に、七つの校園を持つ校区で、1000人あまりの子どもたちが学んでいます。

この地域に住む子どもたちには、やはり地域の歴史や文化、先人の偉業をよく知り、それらを誇りに思い、地域を愛する子どもたちになってほしいと願っています。また、思いやり、命の大切さに気づき感謝の気持ちやあいさが素直に表現できる子どもに育ててほしいと考えています。

また、生徒数の減少に伴い幼小中の連携、幼幼連携、小小連携を大切にしながら活動を進めています。

2. 取組の概要

3つの幼稚園では、親子遠足、さほっ子クラブ、お茶会、お話の会、園外保育、合同遠足などの取組を通して、地域の方々や保護者、児童、近隣の園児らとともに、世代を越えたふれあいを通して「豊かな心」と「輝く夢」を育むことをめざし取り組んでいます。



3つの小学校では、菜の花プロジェクト、ニッポンバラタナゴ保全活動、ビオトープづくり等の取組を通して、様々な『ひと』『もの』『こと』との出会いや自然や文化遺産を学び合い支え合うことを通して、人と人の結びつきを深め主体的に学ぶ力の育成をめざしています。

中学校では、自ら学ぶ姿勢と、思いを表現できる力の育成に取り組んでいます。

地域の方々や保護者によるボランティア活動では、佐保川清掃をはじめ、図書室の整備や校舎壁面の塗装、花の植えかえなど、地域の環境整備

や生徒の学習の場づくりに取り組んでいただいています。また、本年度から中3学習会、部活動巡回ボランティアを実施し、学力補充の取組や部活動の「見守り」もしていただいています。

協議会では、『奈良を知る 地域を知る』をテーマに文化講演会を開催しています。



地域の良さを学び、自分を育ててくれた地域や学校を誇りに思う生徒の育成をめざしています。今年度は、東大寺の上司師に「華厳～ひとりひとりが華であるという考え方～」と題し、ご講演いただきました。

また、文科省主催の「地域とともにある学校づくり」フォーラムに参加し、全国の先進的な取組や参加者の熟議を見聞きし、今後の実践に向けての議論を深める研修となりました。

3. 成果と課題

各校園では、コーディネーターを中心に地域の方々の支援を受けて、これらの取組は軌道に乗り、保護者の期待も高まっています。また、それぞれの校園での地域の方々のつながりも深まってきました。しかしながら、協議会全体を見渡してみると、各校園での取組は完結し軌道に乗ってきているが、取組相互の交流や連携を意識したものになっていなかったのではないか、といった課題も見えてきました。

そこで、それぞれの校園の取組を継承しつつ、取組の連携を模索しながら、7校園の1つ1つの取組を通して、地域の人々が線から面へとつながり合い、有機的に作用しあえる姿（絆）を追求していきたいと考えています。

事業名

学びを育む

目 標

自ら学ぶ姿勢と意思を表現できる力を身につける

1. 取組の視点

生徒たちに「真の学力」を身につけるために教科学習に力を注ぐと共に体験的な学習を大切に、身につけた力を様々な発表会や生徒会活動に十分発揮出来ることを願って取組をすすめています。自ら学ぶことの楽しさを知った生徒は目標をしっかりと持ち、どんな困難な課題も粘り強く克服していけると考えています。

2. 取組の概要

○学習支援

- ・「学びのはぐくみ」の作成・配布

3年間の学習を見通した冊子「学びのはぐくみ」を作成しました。家庭でどのように学習をすすめていけばいいのか悩んでいる生徒たちへの具体的な見本となるようにしました。

- ・「図書館学習」、「中3学習会ボランティア」

毎週火曜日と長期休業前や休業中に学力補充の取組を続けています。また、3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域の方々にボランティアとして協力いただき学習会を開いています。



- ・「研究授業」

奈良教育大学の赤沢先生をお招きし、よりわかりやすい授業をどう展開すればいいのかを全ての教員で研修を深めています。

○学校行事

- ・「文化祭」「私の主張」発表会

自分の訴えたいことをしっかりと伝え、友の話に心から耳を傾ける雰囲気を作りたいと考えています。今年も学級、学年、文化祭の場で発表会を行いました。保護者、地域の方々からも好評を頂いています。

- ・「ゲストティーチャー」から学ぶ

1年生では、海外青年協力隊としてアフリカ諸

国で活躍されてきた藤井さんから国々の文化や自然について学ぶ機会を持ちました。これからの生徒は国を越え、お互いの文化を尊敬と信頼を持って理解し協力し合う必要があります。

2年生では、将来、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するため6名の講師の方をお招きし、職場体験の事前学習会を行いました。プロの方々素晴らしい技能に感動と憧れを抱く良き機会となりました。障がい者理解講演会では、車いすバスケットの元日本代表の根木さんから学びました。根木さんの巧みな話術と素晴らしい技に引き込まれ、楽しい2時間を過ごしました。

○環境整備

- ・「図書室と校地環境の整備」

PTA や地域の方々がボラン



ティアとして図書室の蔵書整備や飾り付け、校舎壁面のペンキ塗り、花の植え付けなど生徒の学習環境をより美しく整備いただき感謝しております。

○安全支援

- ・「部活動巡回ボランティア」

職員会議等で部活動の場に顧問が付けられない現状の中で、活動する生徒を保護者の皆様が巡回ボランティアとして見守っていただいています。

3. 成果と課題

ゲストティーチャー・保護者・地域の方々に来校いただき、生徒の姿を見ていただくとともに、生徒たちは様々な方から様々なことを学ぶ機会を数多く持つことができました。

課題としては、学習の目標や内容・評価規準を保護者や生徒に明示するためにシラバスの作成をめざしています。また、家庭学習の定着を勧める上で小中の連携を啓発しながら取組を進めていく必要を感じています。

事業名

鼓阪すてき出会い発見

目 標

様々な「人」「物」「事」と出会い、児童・PTA・地域住民が、互いに結びつきを深め合えるようにする。

1. 取組の視点

世界遺産に囲まれた素晴らしい環境に学校があり、昔から地域の結びつきは大変強いが、児童数が年々減少する昨今、学校と地域のつながりが希薄となっています。学校が様々な「人」「物」「事」との出会いを演出することで地域の教育力の核となり、互いの結びつきを深め合えるよう取り組んできました。

2. 取組の概要

◎ニッポンバラタナゴ保全活動を通して

奈良公園で絶滅が危惧されていたニッポンバラタナゴが発見されて以来、その種の保存のために活動されてきた近畿大学農学部環境管理学科の北川先生をはじめ、大学生の方々よりニッポンバラタナゴの飼育の方法や環境と生物の関係等について学ばせてもらいました。世界遺産のある町と日本古来より引き続いた生命を絶やすことのないようにと学習を進めています。



◎地域再発見研修会を通して（奈良養護学校整肢園を訪ねて・鼓阪小校区の歴史を知る）

昨年度は校区内でフィールドワークを通し、地域の学習を進めました。今年度は教職員・PTA・地域の方々と地域の施設訪問や、講師を招いての講演会を開催しました。

施設訪問では校区にある奈良県立奈良養護学

校整肢園分校を訪ねて、施設の説明、授業内容の説明を受けました。また、隣接する東大寺福祉療育病院も施設も訪ねました。整肢園では学習の内容とその教具の工夫等を聞かせていただき、あらためて先生方の熱意と努力に感心しました。

3. 成果と課題



数々の取組をおこない、児童の表情には輝きや、笑顔が見られました。そして、取組を通じて地域の方々より協力、アドバイスを受けながらつながりができました。「笑顔あふれ・歓びあふれ・愛あふれ」という学校教育目標を追求する取組ができたように感じられます。

児童が「人」との出会いで、多くのつながりができ、「物」との出会いで深く知ることができ、「事」との出会いで喜びが湧いたようでした。

地域の方々に見守られ、助けられた事業であり、何よりも、取組を行う中で、物や事に触れ合うことにより、興味関心が次の学習へのステップアップになっていました。体験学習や経験学習の大切さを実感した事業でした。

更に今後、この事業を積み重ね、継続的学習に発展させることが大切です。

常に支えてくれている若草中校区の方々に感謝いたします。

事業名

佐保に生きる

目 標

- ・佐保のよさが分かり、佐保を愛する心情と態度を育てる。
- ・佐保の自然や文化遺産を学ぶ。

1. 取組の視点

・「特色ある教育活動」を推進する中で、「佐保に生きる」をテーマに、体験的な学習の充実に努めます。特に、ビオトープづくりを通して、佐保の環境を知り、自然環境から「命」や「生きる」を考えます。

・全校縦割りの異年齢集団活動（ともだち活動）では、高学年の子どもたちが、リーダーとしての自覚をもち、なかま意識や生き方を考える心を育てます。

・本校の伝統である「マーチング活動」や地域の方に葉ボタンを届ける「みどりの少年団活動」では、地域の人とのふれ合いや交流を通して、児童に自信と佐保に生きる誇り、地域を愛する心を持たせます。

2. 取組の概要

ビオトープづくり

主として、毎年5年生が佐保の森にある観



察池をよみがえらせ、地域の方に支援してもらいながら、ビオトープづくりやその維持を行っています。水辺に合う植物を植えたり、周りの環境を整えたりすることで、「自然」に触れ、慣れ、親しみます。そこから自然生態を肌で感じ、「命」や「生きる」を身近な自然から発見していきます。

ともだち活動

リーダーとしての役割や活動への自主性が培われています。異年齢集団活動は、人とつながる



ことの大切さを知ることや友だちへの思いやりの心を育てています。

マーチング活動



児童31名（4年～6年）が、伝統あるマーチング活動を実施しています。昼休みや放課後の時間を利用して、一生懸命練習に励んでいます。本年度も人権ふれ合いフェスタの行事に参加したり、幼・小・中・高合同のふれ合いコンサートや各種スポーツ大会の応援演奏で発表したりしています。

日頃の練習の成果を発揮し、地域の方々から賞賛の声とすばらしい評価をいただいています。

3. 成果と課題

本年度も学校自己評価を行うと共に、保護者や学校評議員等による学校関係者評価を実施しています。児童一人ひとりが、自分の住んでいる佐保のよさを理解し、地域の方に支えられて生きていることを肌で感じる事ができたように思います。また、児童の生き生きした姿に、佐保のよさを知り佐保を愛する心が育っているとの賞賛の声を聞くこともあり、地域の方とのつながりが深まったと思います。しかし、佐保地区・若草中学校校区さらには奈良全体を考えるまでにはまだ不十分です。今後、さらに地域の人との交流の場を多く設定し、地域の人と共に作り歩いていける教育課程の工夫や、多くの人に学校の取組を知ってもらうための啓発と発信を強めることも必要であると思います。

事業名

夢がひろがるつぎ北広場

目 標

**地域とのふれあい、人・もの・こととの豊かな体験活動を増やし、
学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる**

1. 取組の視点

本校では、主体的に学ぶ児童の育成を目指し、

① 生活科や総合的な学習の時間を中心とした多様な体験や多くの方々との出会いの場の設定、② 図書室を中心とした学習環境の整備を進めてきました。

取組を充実させるに当たっては、学校が小規模化していることもあり、地域ぐるみで学校を活性化させること、そのための保護者や地域の方々との連携強化は欠かせません。また、隣接する幼稚園も小規模化しており、幼小連携による学習活動の活性化、相互の育ち合いも大切にしています。

新興住宅地が多くを占める本校区において、児童に地域への理解を深め、愛着・誇りを持たせることは重要です。そのために、この1年間、より多くの学校協力者やボランティアによる学校支援の輪を広げようと努めてきました。

2. 取組の概要

① 本校の特色の一つである菜の花プロジェクトを核として世界遺産学習、環境教育、福祉交流学習等の幅広い学習へと体系的につなぎ、魅力ある総合学習の構築を進めています。本年度から加盟したユネスコスクールによる ESD（持続発展教育）の推進と併せて充実を図っています。



代表的な取組の一つとして、秋になると、前年度から栽培している菜の花からとれた菜

種油を、5年生と幼稚園児が灯明油として東大寺と春日大社に届けています。

東大寺では、大仏殿で上司永照師（東大寺庶務執事）に大仏や大仏殿の歴史についてお話を聞いたのち、全員が梯子をのぼって大仏の台座にあらせていただき、灯明油をお供えしました。台座から大仏を拝観することは普段はできない体験であり、地元奈良にある世界遺産を肌で感じられる学習となりました。

② 児童の自発的な学習を促すため、図書室を中心とした学習環境の整備に取り組んでいます。

コーディネーターによる先進校視察を皮切りに、児童にとって魅力ある学びの空間となる図書室づくりを目指し、コーディネーターと教職員それぞれのアイデアや意見を出し合い調整しながら



ら図書配置のレイアウトを決めていきました。現在はそれをもとにボランティア

による本の選別と入替、十進分類によるラベルの貼り替え、室内掲示、本の展示等の活動が進んでいます。

3. 成果と課題

活動を通して連携のネットワークを広げ、それを軌道に乗せようとして取り組んできました。学校支援が、組織的な取組として徐々に根付きつつあります。

現在のところ、PTA 組織が学校支援活動の多くを担っていますが、広く地域にとってメリットのある取組をさらに模索・追求し、学校・家庭・地域が一緒に汗を流して、児童の教育を地域全体で支える関係づくりを進めたいと考えています。

事業名

笑顔があふれるつざかっ子

目 標

園児・保護者・未就園児親子・地域住民・近隣園児・小学校の児童が触れ合い、交流を通して豊かな心を育み、共に感動体験が出来るようにする。

1. 取組の視点

園児も少なく、大半が核家族であり、人との関わりや友だちと一緒に遊ぶ経験が乏しいように思われます。そこで、「人・物・できごと」との出会いを大切にし、楽しい体験をすることで豊かな心を持ち、意欲的に活動する幼児の育成に向けて幼児教育の推進に取り組むと共にそれらの活動に合った環境の工夫に取り組みました。

2. 取組の概要

☆親子での楽しい経験を通して

親子でいろいろな経験をする中で、園での子どもの姿を知ったり、感動を共感したりして、子どもの育ち、園教育への理解を深めたいと人形劇観劇会・親子遠足・餅つき会・栽培活動・環境整備などを行いました。栽培活動では、一緒に世話をすることで新しい発見をしたり、生長を楽しみにしたりする親子の姿が見られました。日曜参観では、親子でいろいろな素材を活かし、制作活動を楽しみました。親子遠足は、奈良市防災センターに出かけ親子で防災体験に参加して、“防災”について関心をもつことができました。



☆未就園児との触れ合いを通して

未就園児親子登園の日と一緒に活動する時間を設けました。絵画活動・紙芝居や絵本を見る活動・お店屋さんごっこの遊び・人形劇観劇・手遊び・体操・音楽会や作品展の一部の内容等を行うことで園児たちは、未就園児に親しみを持ったり、優しく接したりと一人一人の力を発揮し、自信につながりました。



☆ゲストティーチャーを迎えての活動

地域の方をゲストティーチャーに迎え、沖縄舞踊教室を開きました。教えていただいた沖縄舞踊は、万葉苑訪問の時に披露し、お年寄りとの交流を深めることができました。



☆民生委員の方々との交流

歌を歌ったり、七夕飾りを作ったり、ゲームや昔の遊びをしたりしました。「これどうするの？教えて」「一緒にして」と園児が声をかけると民生委員の方々は、優しく丁寧に教えてくださり、とても嬉しそうな表情をし、楽しい時間を過ごしました。

3. 成果と課題

○地域と協力して園児を育てていけるよう地域の教育力も活かしながら活動に取り組んできました。様々な人々との出会いを通して、人と積極的にかかわり、表現する喜びや人に対する優しさ等を身に付けることができました。

○少人数で園児だけではいろいろな経験が出来にくい面があるので、いろいろな人とかわる中で楽しい経験を積み重ねていきたいと考えます。今後も地域・幼稚園・小学校・中学校が連携し合い、充実した取り組みにしていきたいです。

事業名

輝く笑顔、心豊かに育ち合う楽しい幼稚園

目 標

地域の教育力を活用し、豊かな社会性や人間性を身につける

1. 取組の視点

「人・もの・こと」とのかかわりを通して、幼稚園・家庭・地域との温かいかかわりや、つながる心地良さを基盤としながら、豊かな心とたくましく意欲的に活動することのできる幼児を育てたいと考え、取り組みました。

- ・地域の方の協力を得て日本の伝統文化に触れる「さほっこクラブ」やお話を会を実施しました。
- ・保護者、地域の方たちとの感動を共有できる触れ合い活動を計画し、子育て支援に努めました。
- ・小学校との交流を年間計画に位置づけ、それぞれの教育について相互理解を図りました。

2. 取組の概要

○さほっこクラブ

地域の方の豊かな教育力によって、日本の伝統文化にふれ、挨拶や礼儀作法を学び人と触れ合う楽しさや豊かな人間性を育てたいと取り組みました。



(剣道クラブ)

姿勢を正しくして、挨拶や大きな声を出して、動く心地良さも感じています。



(柔道クラブ)

畳の感触を楽しみながら受け身に挑戦しています。



(茶道クラブ)

道具の使い方が分かり、正座にも慣れ、お点前も上手になりました。



(華道クラブ)

季節の花の名前や、香りに関心をもち楽しく生けました。



(わらべうたクラブ)

手と手をつなぎ、わらべうたを口ずさみ友達と楽しんでいます。

○お話の会

年間を通して地域の方に季節の話をしていただいています。未就園児や友達と心を通わせる楽しいひと時となっています。



○地域へ出かけよう

佐保川の桜まつりで樹齢100年の川路の桜に驚きました。地域の人たちが大切に守り育ててこられたことを知り、子どもたちの眼が輝きました。



○触れ合い遊び

11月にオープンキンダーガーデン、1月に昔遊び会を開催しました。昔遊び(お手玉・けん玉・折り紙・おはじき・羽子板・こま回し)を地域の方や家族、友達と一緒に楽しみました。

○小学校との交流を通して

幼・小の教師間で事前に話し合い、計画的に進めてきました。秋見つけ・秋探検・合同遠足・合同授業・作品展交流・お手伝い名人と回を重ねるごとに楽しみが増すと共に、小学校生活の様子を見たり体験したりしたことで、入学への期待が膨らみました。



3. 成果と課題

様々な出来事や人との交流は、子どもにとっては園生活がより豊かに深まり、保護者にとっては子育てを楽しもうとする気持ちの支えになったように思います。継続的な交流は、その方々の人間性にも触れ、子どもたちの話を聴く力や態度の育成に繋がり、コミュニケーション能力を身につける素地と考えます。地域の方の愛情深い昔遊びの教えは人間形成の基盤である幼児期に人に信頼感をもち、優しい心で接する経験になったと思います。地域の教育力をたくさんいただきながら、“地域の中の幼稚園”を目指していきます。

事業名 ふれあい であい 輝け 子どもの夢

目標 地域や学校との連携を密にし、世代を超えたふれあい、
出合いを体験して豊かな心と輝く夢を育む。

1. 取組の視点

園児数が少ないという実態から、いろいろな人々（地域の方々・保護者・小学生・中学生、他園の園児・未就園児等）と出合い、触れ合い活動を通して、共に心に残る感動体験を積み重ねていくようにしました。また、豊かな心と輝く夢をもった幼児を育成するために、地域や学校との連携を大切にしながら、保育内容や環境構成の工夫に取り組みました。

2. 取組の概要

【菜の花プロジェクト】

畑で菜の花を育て、摘んだ菜の花の天ぷらを食べ、刈り取り・種取り・脱穀・油絞りの経験を小学生と一緒にしました。

10月には5年生や地域の方・保護者と一緒に貸切りバスで東大寺大仏殿に菜種油を奉納し、貴重な感動体験ができました。



【野菜の収穫～北っ子パーティー】

地域の方と一緒にジャガイモやタマネギの栽培・収穫をしました。北っ子パーティーでは、収穫した野菜を使ったカレーを作り、1年生や地域の方を招待して収穫祭とふれあいを楽しみました。今年度は、保護者にも参加してもらったので、地域の方と保護者の会話もはずみ、地域ぐるみで子どもを育てていこうという意識を感じてもらえたようです。



【お茶会】

年間5回の計画をたて、講師の先生から指導していただきました。日本の伝統文化にふれ、緊張の中にも穏やかなひとときを過ごしました。お茶の点て方や作法だけでなく、心を込めて相手をもてなす気持ちも育ってきました。



【他園との交流】

10月に3園で園外保育に出かけました。他園の幼児と手をつないでコスモスが咲く般若寺の境内を散策したり、植村牧場で大きな牛を見たり、鹿せんべい作りを見せてもらったりしました。奈良豆比古神社では地域の方にクスノキに棲むフクロウの話を聞かせてもらい、自分たちの園区にある身近な文化財に触れるよい機会となりました。弁当を食べた後、みんなでリレーやサッカーをして園庭で存分に遊び、交流を深めることができました。



3. 成果と課題

様々な人と触れ合い、感動体験を積み重ねたことで生活経験が広がり、人に対する思いやりや感謝の気持ちをもつことができました。今後は、豊かな心を育むと共に、日々の生活の中で様々な動きを楽しみながら体力作りにも取り組み、心と体の充実を図りたいと思います。